



流作場 ~河口の島からにぎわいの町へ

河口の島と古信濃川の誕生

昔、信濃川と阿賀野川の河口部分の地形は何度も変化を繰り返していました。右岸の沼垂町は川の侵食から逃れるため移転を重ね、貞享元年(1684)に現在地に定住します。その後川幅は沼垂町側に大きく広がり、信濃川には多くの中洲や島ができていきました。沼垂町と対岸の新潟町は島の所有権を争いますが、元禄12年(1699)に島の支配権は新潟町のものとなります(元禄の湊訴訟、図A)。

島はその後約50年で沼垂側に寄り付くほどになり、付寄島(つけよりじま)または向島(むこうじま)と呼ばれました。沼垂町との間は幅70~140mほどの浅瀬(古信濃川)になって、信濃川の本流は島と新潟町の間に変わっていました(図B)。

安倍玄的らの「流作場新田」開発

延享3年(1746)、新潟町を統治していた長岡藩は付寄島の開発を安倍玄的(あべげんてき)ら5名に命じます。沼垂町は付寄島の一部所有権を主張しますが(延享の島争い)、受け入れられることはありませんでした。

寛延3年(1750)、4年の開発期間を経て新田村が誕生します。ここが「流作場新田」で、開発の中心となった安倍玄的の名前をとって「玄的」とも呼ばれました。

天保14年(1843)の新潟上知によって、新潟町は幕府領となります。弘化元年(1844)には流作場新田と寄居村も上知され、幕府領となりました。



図B 延享4年(1747)沼垂新潟増殖立会絵図写(部分) 『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成、一部改変



図A 元禄12年(1699)4月沼垂訴訟立会絵図写(部分) 『新潟市史』通史編2 近世(下)から作成

新潟町と沼垂町をつなぐ

信濃川を挟んで位置する新潟町と沼垂町の行き来は渡し舟によるものでしたが、明治19年(1886)に萬代橋が開通、同時に萬代橋から沼垂町をつなぐ県道「万代町通」も造成され行き来する方法が大きく変化します。明治30年(1897)沼垂駅、37年(1904)に新潟駅が流作場に開業し、万代町通はにぎわいを増して流作場新田は新潟町と沼垂町をつなぐ町としての機能を大きくしていきます。

明治以降、流作場新田は中蒲原郡の1村となりますが、明治22年(1889)に沼垂町と合併、大正3年(1914)には新潟市と沼垂町の合併によって新潟市に統合され、今に至ります。

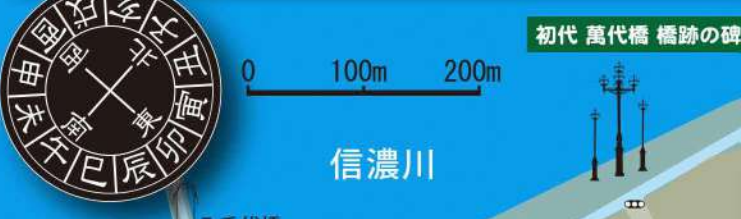
全国とつなぐ

昭和29年(1954)、新潟駅の移転のために現在新潟駅がある場所の土地区画整理事業が着工され、駅前道路・東大通とこれに直交する明石通が整備されていきます。駅は昭和33年(1958)に移転し、流作場はバスや鉄道といった交通の拠点となり、さらに昭和40年代後半には「万代シティ」という商業エリアに変貌を遂げます。

昭和50年代には流作場という住所は姿を消しますが、大正、昭和、平成という時代の流れの中で、新潟市の拠点機能を果たす要の地区として、さらに変化と発展を続けています。



- 古信濃川跡をたどるコース
- 萬代橋~流作場五差路~三社神社~本立寺~天明町~万代町通
- 流作場五差路~旧新潟駅前通~弁天公園~春日町~新潟駅
- 初代・二代目の萬代橋の架かっていた位置
- 信濃川と古信濃川に囲まれた流作場のおおよそのエリア
- 明治初年の沼垂町のおおよそのエリア
- 地図上の水面(薄い水色部)の堀や川岸の跡は大正8(1921)年発行「新潟市全図」を参考にし、おおよその位置です。
- 沼垂の町・小路めぐり案内板の位置と、小路めぐりコース



このマップができた2014年は、新潟市と沼垂町合併100年目の年なのニャ!

★マークはお宝解説板設置の場所ニャ!

つなぐ町流作場あるき (古信濃川跡めぐり)

参考文献
『新潟歴史双書3 新潟歴史物語』、『新潟歴史双書8 新潟の地名と歴史』、『新潟歴史双書9 萬代橋と新潟』(以上、新潟市発行)

※記載した内容には、歴史的には定説とすることが難しいものも含まれており、いろいろ誤りがあるかと思えます。また、漏れ等もあるかと思いますが、みなさまがまちづくりを考える際に役立てていただければ幸いです。

散策の際には、近隣の方や通行の方のご迷惑にならないよう、節度ある行動をお願いいたします。

〈見方・使い方〉
折りたたんでページをめくるように見てください。
裏も同じように真ん中で折り返し、たたんでください。

- イラスト・写真・構成:野内隆裕
- デザイン・本文テキスト:上田浩子
- 協力:新潟市歴史博物館みなとびあ
- 製作協力:roji-ren niigata



下所ポンプ場(信濃川右岸)から見た信濃川パノラマ写真



古信濃川入口

歴史をつなぐ ~古信濃川跡めぐり

流作場の始まりは、信濃川の中州が寄り付いて成長し島となった土地でした。「付寄島」と呼ばれたその島と沼垂町との間の浅瀬となり、「古信濃川」と呼ばれるようになりました。かつては多くの船が行き交い、生活に欠かせない川でしたが、時代の変化にともなって昭和40年頃ま

で埋め立てられてしまいました。しかし、川としての姿は残っていないまでも、排水機の位置や道路の形などにその跡を見ることができます。「古信濃川」の跡をたどると、昔のダイナミックな地形の変化と、それら乗り越えてきた町の成り立ちを感じることができます。



古信濃川の入口

信濃川右岸、右下のきりかけ部分が古信濃川の入口



正面に排水機場、その後ろが古信濃川の流れの道です



信濃川右岸のNST社屋テラスは通行自由



土手道

古信濃川跡

土手道



古信濃川跡上にある「マツヤ」の前から、今は道路になっている古信濃川跡を見た風景です。道路のカーブは、の川の流れの名残です。ところで「マツヤ」はロシアチョコの専門店。ワタシはパッケージのマトリョーシカです。いろんなフルーツやクリームチョコはどれも美味しいマトリョーシカ!



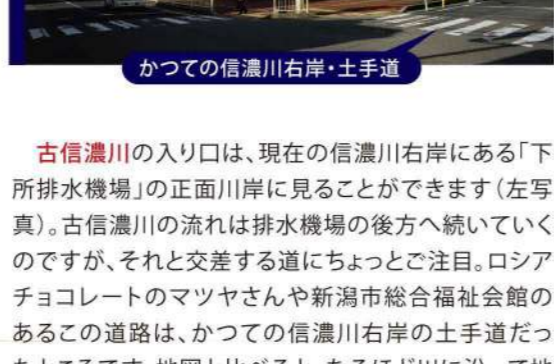
歩け歩け



ここが古信濃川跡!



上:「マツヤ」から見た風景 下:新潟市総合福祉会館



かつての信濃川右岸・土手道

古信濃川の入り口は、現在の信濃川右岸にある「下所排水機場」の正面川岸に見ることができます(左写真)。古信濃川の流れは排水機場の後方へ続いていくのですが、それと交差する道にちょっとご注目。ロシアチョコレートのマツヤさんや新潟市総合福祉会館のあるこの道路は、かつての信濃川右岸の土手道だったところ。地図と比べると、なるほど川に沿って地形ができてるのがよくわかります。



ここが古信濃川跡!(中央区天神尾)



道路の真ん中になぜ公園が? 実はこの「天神第二公園」は、古信濃川の土手だった場所にあるパンダ。ココロの目でじーっと道路を見ていると、川の流れが見えてくるパンダよ~!



水鳥稲荷神社(中央区水鳥町)

住宅街の中に忽然と現れる赤い鳥居は、「水鳥稲荷神社」のもの。文化9年(1812)、農仁仁四郎、市左衛門等6人が度重なる作流れに対処し石宮を建てたのが始めとされています。やはり洪水の被害は深刻だったのですね。昭和53年(1978)に建立地が上越新幹線の用地となったため、現在の場所に移されました。



水鳥稲荷神社



古信濃川跡

本立寺

明石通り方面から、万代町通の古信濃川跡

万代町通からピア万代方面の古信濃川跡



ボクがいる東公園の向いに、ほんぼーと新潟市立中央図書館と「古信濃川の流れありき」の碑があるケロ。古信濃川について説明してある案内板もあるから、読んでケロケロ。

東公園



ここが古信濃川跡!

東路線橋を渡っていきまーす

ここが古信濃川跡!

プラーカ1を抜けた先に続く道(古信濃川跡)沿いに、「クワイのある家」発見!

この辺りが古信濃川跡!



古信濃川の位置

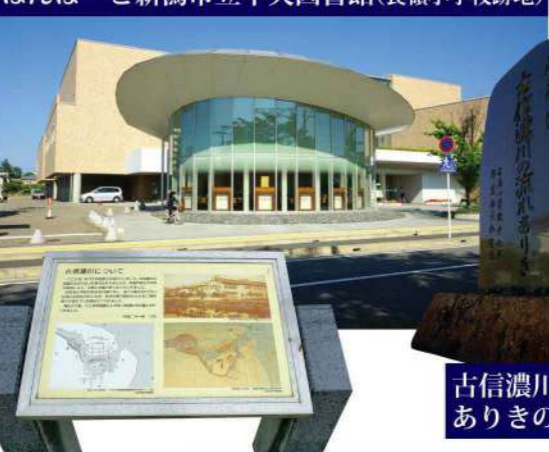
本立寺

ここが古信濃川の出口

本立寺

朱鷺メッセ展望室からの風景

ほんぼーと新潟市立中央図書館(長嶺小学校跡地)



にぎわい市場ピアBandaiの脇に「古信濃川出口」があります。対岸の朱鷺メッセが大きく見えます。

こちらは古信濃川排水機場です!

古信濃川の流れありきの碑

古信濃川についての案内板

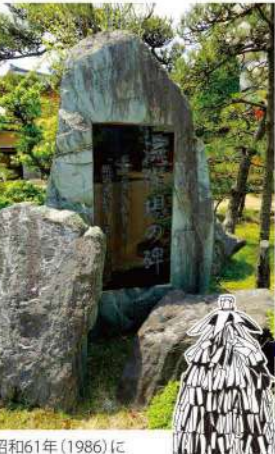
万代長嶺小学校(市立実科高等学校・沼垂高校跡地)



古信濃川跡から路地ごしに見る万代長嶺小学校。正面に石碑が見えます。

本立寺 安倍玄的の墓(中央区三和町)

万代長嶺小学校の敷地は、大正時代には女学校、その後は沼垂高校があった場所です。小学校前の道路は古信濃川の流れに並行していますが、これはかつてこの道路が古信濃川の土手道だったからです。



昭和61年(1986)に流作場開拓240年を記念して建てられた「流作場の碑」

「流作場の碑」がある三社神社も安倍玄的の守り神じゃ。詳しくは裏面を読まれよ!

三社神社

古信濃川の出口近くにある「本立寺」は、延享3年(1746)に流作場の開拓者・安倍玄的がツツガ虫撃退祈願のために弁財天を祀ったのがはじまりとされているお寺で、玄的のお墓があります。本堂は大正12年(1923)の沼垂大火で焼失し、現在のものは昭和30年に新築されたものです。



町をつなぐ～新潟町と沼垂町 萬代橋と流作場

萬代橋の開通

沼垂町が現在地に定住した貞享元年(1684)頃、信濃川の川幅は700mほどもあり、対岸の新潟町との行き来は渡し舟によるものでした。明治19年(1886)「新潟日日新聞」社長の内山信太郎の架橋計画に許可があり、第四国立銀行(現在の第四銀行)頭取・八木朋直の資金援助を得て工事に着手、同年11月4日に長さ782m、幅6.4mの初代「萬代橋」が開通しました。流作場五差路は、その東詰めのたもとでした。

はじめは1人1銭の有料橋でしたが、明治30年(1897)の沼垂駅開業で利用者が急増、明治33年(1900)には県



初代萬代橋



二代目萬代橋の隣に新しく架けられた三代目萬代橋



初代・二代目萬代橋の位置



初代・二代目萬代橋の架かっていた両岸の位置にある「初代萬代橋橋跡の碑」



ウシらが架けたんじゅよ～



千二百七十歩なり露の橋 (萬代橋を渡り見る) 高浜虚子

俳人の高浜虚子は、弟子の中田みづほ、高野素十、浜口今夜が新潟医科大学に在職していたため、何度も新潟を訪れています。大正13年(1924)9月に滞在していた折、萬代橋を歩いて詠んだ句は、石碑になって萬代橋西詰めのオークラホテル前に建っています。

営の橋となり無料で渡れるようになりました。

明治41年(1908)初代萬代橋は大火で焼失し、翌42年(1909)に二代目が完成します。その後、自動車交通の増大に伴い、昭和4年(1929)に鉄筋コンクリートの三代目萬代橋が架けられました。これが現在の萬代橋です。

大正11年(1922)上流に大河津分水ができて信濃川の流量が安定したため、信濃川両岸は計画的に埋め立てが進められました。その結果、川幅はぐんと狭まり、橋の長さは307m、逆に橋幅は22mに広げられ、車道と歩道が整備されました。三代目萬代橋は、平成16年(2004)に国の重要文化財に指定されています。



●平成2年(1990)、万代シティで整備中の地下歩道「万代クロッシング」の工事現場から、初代と二代目萬代橋の橋脚の杭12本が、明治19年(1886)に打設されたままの状態で見られました。そのうち3本はそのまま残され、今も同じ場所に立ち続けています(写真左上)。

●「萬代橋」という名前は、ずっと先の世まで新潟の街の発展に尽くすことを願ってつけられたものです。橋の名板の文字は、元老院議員で大正天皇の伯父の柳原前光伯爵の書が基になっています。流作場五差路のポケットパークには、そのレプリカが展示されています(写真下:F)。

当時の汽車は、「あま太郎」の前を通って今の弁天公園の前光伯爵の書が基になっています。流作場五差路のポケットパークには、そのレプリカが展示されています(写真下:F)。



手前が流作場五差路のポケットパーク。萬代橋の名板レプリカと案内板があります。交差点を挟んだ向こうが万代町通

つながる町～「万代町通」

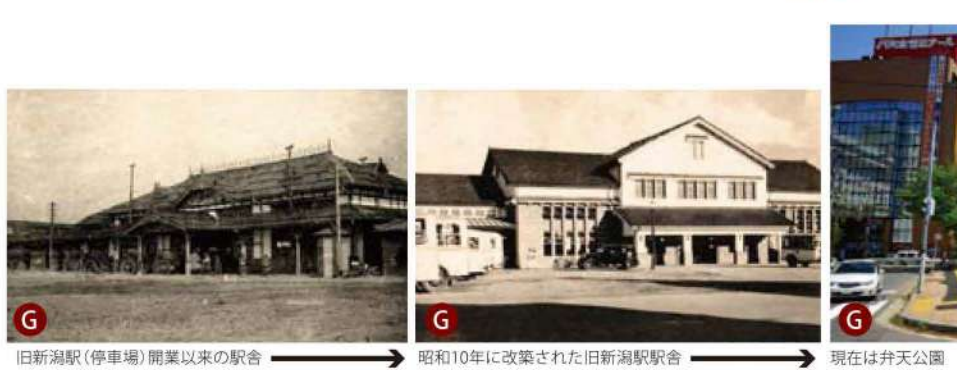
明治19年(1886)の萬代橋開通後、橋と沼垂町を結ぶ長さ650mの県道が造成され新道と呼ばれました。明治30年(1897)、沼垂町の竜が島に北越鉄道(後の信越線)沼垂駅が開業し、さらに37年(1904)鉄道が延びて流作場(現在の弁天公園付近)に新潟駅が開業すると、新潟駅と沼垂駅を結ぶ新道には多くの商店が建ち並ぶようになって、「万代町通」と呼ばれるようになりました。また、新潟市から萬代橋を渡った先の、東に万代町通、

西に新潟駅前通となる交差点は流作場三差路(現在の流作場五差路)と呼ばれるようになりました。鉄道の開通により、竜が島や山の下に石油精製・製紙などの大工場が建設されて竜が島に近代的な埠頭の建設計画がたてられ、沼垂と新潟の合併も進められます。大正3年(1914)新潟町と沼垂町が合併。流作場新田は流作場に改称され、大正15年(1926・12月に昭和改元)に竜が島に県営の埠頭が完成し、竜が島周辺は新たな新開地として急激な変貌を遂げていきます。



大正15年(1926)「新潟市全図」

明治30年(1897)の沼垂駅開業により周辺はにぎわいを増して、沼垂四ツ角周辺は「沼垂銀座」と呼ばれるほどでした。明治37年(1904)に新潟駅が開業すると新潟駅前も新開地となります。大正・昭和期を通じて新潟市の戸数、人口は増大をしていきます。中でも新しい工場ができた沼垂・山の下や流作場は、交通の便が良くなったこともあって、多くの人が移り住み、



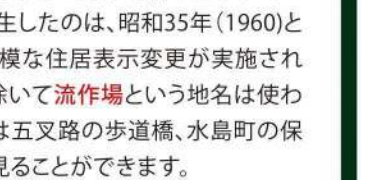
旧新潟駅(停車場)開業以来の駅舎 → 昭和10年に改築された旧新潟駅駅舎 → 現在は弁天公園



昭和12年(1937)頃に描かれた「日本海大博覧会事務局「新潟島地図」吉田初三郎画



古信濃川河口の鉄橋(絵葉書より)



流作場五差路の歩道橋から見た萬代橋方面



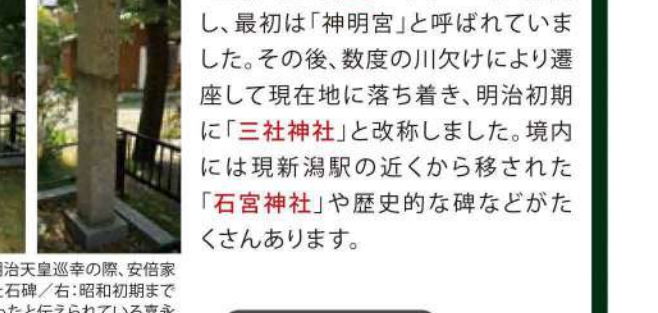
三社神社(中央区三和町)



万代町通は、戦争中に道路の南側が拡幅されましたが北側は手つがずなので、古い建物がいくつか残されています



三社神社(中央区三和町)



いい路地が続く 天明町界隈ですニャ

境内に設置してある新潟市のお宝解説板に詳しい説明が書いてあるよ!

三社まつりでは、神輿とともに天狗さまが地域をめぐり歩きます。時代は変わっても、いまでも変わらぬ流作場の守り神なのです

「三社神社」は、安倍玄昶が流作場の鎮守として延享4年(1747)に創建し、最初は「神明宮」と呼ばれていました。その後、数度の川欠けにより遷座して現在地に落ち着き、明治初期に「三社神社」と改称しました。境内には現新潟駅の近くから移された「石宮神社」や歴史的な碑などがたくさんあります。

かつていい建物発見! ボクもどこかにいるよ!



昭和33年(1958)以前 新潟駅前土地区画整理工事の状況

昭和33年(1958)、新潟駅が現在地に移転し、民間の店舗も入居する「民衆駅」として開業しました。移転前には42.4haの田を埋め立て、新駅から流作場までの幅50mの道路(東大通)とこれに直交する道路(明石通)を新設し、街区が設計されました。上の写真は工事中の様子。まだ、駅前には建物が何も建っていません。



「ハス池の多いド口田を1年かけて埋め立てた」土地区画整理事業の竣工を記念して、新潟駅万代口正面に設置されていた裸婦像は、2014年3月からは隣の石宮公園に移設されています。



昭和33年(1958)開業時の新潟駅前。向かって右にバスターミナルがあります(写真上)



駅前(現在の万代口前)正面の東大通は当初から片側4車線の道路でした(写真右)



平成25年(2013)の新潟駅前・東大通(写真左)



2013年の新潟駅万代口正面パノラマ写真 旧新潟駅からの路地めぐり～春日町・南万代町界隈

全国とつなぐ～現在の新潟駅



上越新幹線開通を記念してたてられた像。新幹線ホーム下で探してね!



新潟駅万代口にもあるバスターミナルは、昭和の香りがする空間。



新潟駅隣の「石宮公園」は、ツツガムシ除けのために弁財天を祀った「石宮神社」があった場所。神社は新潟駅の移転時に「三社神社」境内に移り、名前だけが残っています。現在は地下駐輪場を併設。多くの人々が利用しています。



弁財天を祀ったことにちなんで生まれた商店街。駅前らしいにぎやかな通りには、弁財様を中心に我々七福神が勢揃い～。



普通の住宅地と思いきや・・・一般の住宅に火焔土器!実はこちらのご主人が手作りしたものだそうです。完成度の高さに思わずうなりますよ。



「とまれ」がこだましている道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



「とまれ」がこだましている道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



2013年の新潟駅万代口正面パノラマ写真 旧新潟駅からの路地めぐり～春日町・南万代町界隈

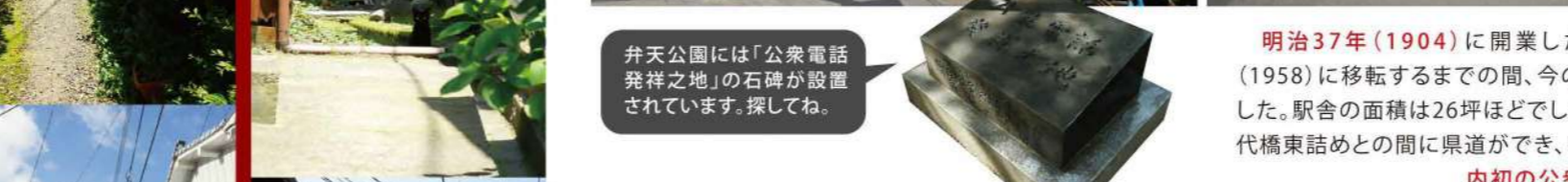
～春日町・南万代町界隈



路地の向こうに鉄塔、銭湯、猫。ちょっとカオスなエリアでは、ゆっくり散歩を楽しみましょう!



弁天公園には「公衆電話発祥之地」の石碑が設置されています。探してね。



明治37年(1904)に開業した新潟駅は、昭和33年(1958)に移転するまでの間、今の弁天公園付近にありました。駅舎の面積は26坪ほどでしたが、開業にあわせて萬代橋東詰めとの間に県道ができ、明治40年(1907)には県内初の公衆電話も設置され、周辺には商店が増えていきました。弁天公園周辺の南万代・春日町界隈は、かつての駅前地域にあたります。迷い込んでみたくなる魅力的な路地や商店がたくさんあるので、ゆっくり歩いてみてください。



「とまれ」がこだましている道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



ぐねぐねカーブしている細道や、昔からあるらしき商店や飲食店。思い思いの植栽や猫の姿もちらりほらり見える。路地めぐりお楽しみ満載のエリア。堪能して欲しいニャー



「とまれ」がこだましている道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



「とまれ」がこだましている道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



2013年の新潟駅万代口正面パノラマ写真 旧新潟駅からの路地めぐり～春日町・南万代町界隈

全国とつなぐ～鉄道と自動車の町・万代シティ



信濃川両岸の埋め立て工事は昭和4年(1929)に着工され、第一期として萬代橋から昭和橋の間約60haが埋め立てられました。左岸側は川端町と名付けられ一般に売却されましたが、右岸側には昭和10年(1935)に新潟合同自動車(現 新潟交通)本社が移転、11年(1936)に新潟鉄道局が開局し、鉄道と自動車の地となりました。



1970年代になって、新潟交通のバスターミナルを中心とした再開発が行われ、万代・八千代エリア帯は「万代シティ」という商業地になりました。現在も新たな商業ビルが建設されるなど、変化を続けています。



郊外へ向かうバスがひっきりなしに発着している新潟交通バスセンター。この名物といえ、立ち食いのカレーなのです。レトルトまで発売されている人気ぶりは、新潟市長からも表彰されています。



バスセンター2Fにワシはおるぞ。見つけられるかな?



信濃川右岸でひときわ自立した「新潟日報メディアシップ」。北前船をイメージした建物は地上20階の高層ビルで、飲食店やホールも併設。展望フロアもあります。



昭和26年(1951)に建てられた新潟交通のバス・ステーションは、日本初のもので大きな話題に(現在のテレコムビルの場所)



信濃川右岸でひときわ自立した「新潟日報メディアシップ」。北前船をイメージした建物は地上20階の高層ビルで、飲食店やホールも併設。展望フロアもあります。

